特定非営利活動法人 コミュニティ・サポートセンター神戸（ＣＳ神戸） 2010年1月25日発行 通巻58号
〒658-0051 神戸市東灘区住吉本町 2-13-1 森田ビル３F TEL 078-841-0310 FAX 078-841-0312

市民フロンティア

URL http://www.cskobe.com/ E-MAIL info@cskobe.com 発行人：中村順子 編集人：梅木利恵

【ＣＳ神戸最前線】

「震災 15 周年を迎えて」

～ つながろう、そして もっと つなげよう ～

中村 順子 （ＣＳ神戸 理事長）

神戸の街は、お正月三が日を過ぎた頃から、日ごとに鎮魂の色を深めていく。とりわけ今年は 15 周年とあって、例年より倍以上の追悼行事が開催され、被災地にある種の決意すら感じとれる。過ぎていく年月に変わりはないが、やはり 15 年という歳月が私たちの心に呼び起こす意味は重く深い。あれからの 15 年を想起し、「これでよかったのだろうか」「あれから何ができたのか」各々が自分自身の心淵に問いかけている。

震災復興として、新しく人のつながりを地域に紡ぎだし、社会に役立つ活動を実施できるコミュニティの支援ができれば、とＣＳ神戸を立ち上げた。

「あなたが地域のためにできることは何ですか」「あなたの想いを形にするお手伝いをします」と呼びかけ、これまでにサークルからＮＰＯ法人まで 260 余りの団体のお手伝いをさせていただいた。

高齢者・子育て・フリースクール・外国人・農林業・環境・スポーツ・表現活動・文化芸術・人権等々自発に基づいたグループ活動は、そのサービスの担い手の元気はもちろん、利用者など受け取る側の元気アップさらに地域問題解決に多いなる効果を発揮してきた。

さらにＣＳ神戸本体においては、コミュニティで必要とされているが未着手の課題について、果敢に挑戦してきた。ＮＰＯの活動拠点の提供・地元ＮＰＯ支援のファンド・ＮＰＯ連携による共同事業・指定管理者事業・生きがいしごとや生活ニーズなどのマッチングセンター・ＮＰＯ強化の人材養成研修等々を実施し、新しい関係づくりや価値づくりを 130 事業に亘り、精力的に実施してきた。

つながろう！

これらの本懐は“つながる”ことにあった。ＣＳ神戸の根本理念は「自立と共生」であるが、主体性を尊重しつつ他者とつながりながら社会に生かしていくことが、いま現在も強く求められている。なぜなら、震災直後の社会状況と今日の状況はひどく類似しているからである。震災で住居が破壊されたことによる失業や喪失感と、今日の経済変化による大量の失業、それに起因する衣食住の喪失、そして蔓延した閉塞感などである。

私たちは震災を教訓につながりを求め続けてきた。縁を得た人々がコミュニティを形づくり、新しい活動に汗を出しあいながら、自分と社会を一つの身体に納めた時、立ち直れることを実感してきた。この今にあっても同様、市民ができることは、多様なつながりを形成することであると考える。このつながりが基礎となって一人と社会がつながり、共助の世界、つまり“新しい公”が生み出され、あたたかい社会へとつながっていく。

ＣＳ神戸は、さまざまな人と人、組織と組織がつながるよう、事業と組織をフル動員して一層がんばらなければならない。新しい生きがいしごとづくりやＮＰＯのネットワークづくり、地縁団体とのつながりづくりなど課題は次々見えている。

もっとつなげよう！

震災がこじ開けてくれた窓が閉じないうちに。

前期2団体に決定、後期も申請団体募集中！

── 市民活動サポート基金 ──

去る11月26日（木）、2009年度第1回市民活動サポート基金の選考委員会が開催され、2団体に今年度初めての助成金交付が決定されました。以下、ご紹介します。

ＮＰＯ法人 市民後見ひょうご
理事長：岡島 貞雄さん
事業名：「成年後見制度普及活動および市民後見人養成事業」
金　額：100,000円

ＣＳ神戸が何年かにわたり実施した「市民後見人養成講座」の受講生を中心に、グループを立ち上げました。成年後見制度は認知症や障がい等によってご自身による判断が難しい方をサポートするための制度ですが、まだ普及が十分ではなく、親族が後見人となっている場合がほとんどです。今後の高齢化社会のことを考えると、親族や専門家だけではなく、市民が市民の後見人としてサポートし合うシステムが必要です。今回の助成金は、人材養成講座や資料製本などに使用したいと考えています。

ＮＰＯ法人 実用日本語教育推進協会
理事長：高畑 笙子さん
事業名：「日本語を核とした新しい形の国際交流サロン事業」
金　額：200,000円

実用日本語教育推進協会は、これまで長年に亘って日本語教育に携わってきた教師達が設立した団体です。今、日本社会の中で必要とされている外国人への日本語教育を積極的に普及するには、日本語を現場で教えてきた日本語教師が、外国人に日本語を教えるためのノウハウを一人でも 多くの人に伝えること。そうすることで、一般の人々が、もっと気軽に、もっとうまく日本語が教えられるようになり、ひいては日本語を通した国際貢献にも役立つことを目的としています。

国際交流サロンは、日本語がきちんと教えられるボランティアを育成しつつ、外国人同士、日本人と外国人が交流を深めていく場として活動しています。

（支援活動担当：飛田敦子）

丹波・篠山と阪神間をつなぐビジネスのヒントを

── ふるさとコミュニティ・ビジネス創出支援事業 ──

農業と酪農生産者の婦木ファミリー

新規事業として始まった「ふるさとコミュニティ・ビジネス創出支援事業」の一環として昨年末に起業のヒントとなるセミナーを開催しました。全４講座で①有機生産者とオーガニックカフェの関係 ②エコツーリズム ③地産地消の観点での家作り ④現地農業生産者の話といった丹波・篠山の特性を活かした生の声を聞くことが出来ました。

参加者43名は、学生、主婦、団体職員、就職活動中の方（起業家の卵）と幅広く、そのうち７割の方は、全会を通して参加されました。今後は、関連する団体とセミナー参加者とのネットワークづくりに向けても動き始めたいと思っています。

人気の園芸用プランター

現在行っている事業の内容としては、森林保全のため行っている間伐とその材の有効利用があります。ウッドデッキなどの建築資材への参入は市場が大きな分、販路・工事施工でまだまだ課題を抱えていますが、個人向けの園芸用プランターとしての活用ではアートフェア等での販売実績が出来上がってきました。丹波のすばらしい農産物の紹介は、実際に生産にも携わっているスタッフが直接阪神間での販売を始め、各地域でのイベント参加で広がりを見せています。また、その過程でデリバリーの課題が発生しましたが、その解決策で新事業を立ち上げられた方も居られます。

少しずつ芽を見せ始めたふるさとコミュニティ・ビジネスですが、その集大成として今期最後に **～ふるさとにチャンスあり！！～** と銘打って大々的にシンポジュウムを開催いたします。３月７日、場所は神戸市勤労会館2F多目的ホールにて甲南大学経営学部教授、西村順二先生の基調講演と実践者による事例発表を行う予定です。多くの皆様の参加をお待ちしております。

コミュニティ・ビジネス創出支援に関わるかたわら、我々スタッフも起業家としてCS神戸を卒業してゆく新たな一歩にしたいと思っています。

（支援活動担当：和田聖士）

“遊びを通して社会の仕組みを体験しよう”

―「うおっこ・ワーキングタウン」体験記 ―

働いて、銀行でお給料を受け取ろう！

5 年目を迎える東灘区魚崎の住民の子育てを地域ぐるみで支援する地域連帯子育て支援事業「うおっこ・ワーキングタウン」は、12 月 5 日NPO団体や地縁団体、行政などを含む 25 団体が参加支援するなか総勢 534 名が参加して開催されました。

その内容は、東灘区民センター小ホールの館内全体を模擬社会に見立て、子ども達(主たる対象は小学生)が働いて得た収入によって買い物をしたり遊んだりすることで，自主性や創造性を育み、体験を通して社会の仕組み、市場の仕組みを学んでもらおうというものです。

「うおっこ・ワーキングタウン」内には、区役所（タウンオフィス）、放送局、警察署、銀行、ハローワーク（しごとセンター）、郵便局、図書館、食堂、喫茶店、食料品店、雑貨店、劇場、アミューズセンターなどがあり、まずタウンオフィスで住民登録をし、ハローワークで仕事を紹介してもらって働き、銀行で給料を受け取り、買い物をしたりゲームを楽しんだりします。

はぜる炭の火の粉と格闘中

仕上げの作業に奮闘中の私

私自身も、児童館スタッフ、ボーイスカウト第 31 団の皆さんに交じってパンコーナーを担当させていただきました。パン生地は事前に本物のパン屋さんで作ってもらっていましたが、パンを買いに来たお客さんは、竹の棒にその生地を巻きつけて炭釜にかざしてパンを焼きます。私が焼き上がったパンから竹の棒を取り除きソーセージを入れれば、手作りパンの完成です。小学生にもならない小さな子供達は、私が作業をしているのをじっと見つめ、出来上がったパンを紙袋に入れて渡すと大事そうに、こわごわとパンを両手でかかえていました。子ども達を相手にお店をするのは本当に楽しいことです。

私達が子供の頃は、あちこちにいわゆる一文菓子屋さんというのがあり、お婆さんが店番をするお店によく買いに行ったものです。お婆さんは商売のことは二の次で、子供達が訪れてくれるのを楽しみにしていたのでしょうね。自分が今、実際に模擬体験してみて、その気持ちがよく分かりました。

（東灘区民センター小ホール：橋埜　裕）

フォトギャラリー

中村さんを囲むはフランスから駆けつけた榎本まなファミリー

≪CS神戸会員大交流会≫
12/18(金)@レストラン・ボーネ
59 名＋おちびちゃん 2 名参加

≪1.17 メモリアル・コンサート≫
竹下景子さん詩の朗読と音楽のタベ
1/17(日)@神戸新聞松方ホール
来場者は 435 名

竹下景子さん、林晶彦さん、板橋文夫ミックスダイナマイトトリオの皆さんがご出演

にぎやか御一行様で行ってきました！

— コミュニティ・ビジネス視察ツアー in 大阪 —

ワラビーとして今年初めて企画した「コミュニティ・ビジネス先進事例を巡る秋の視察ツアー」。11月18日（水）に実施し、皆でワイワイと行ってきました。視察先は**①NPO法人寝屋川あいの会、②有限会社 office ぱれっと/NPO法人NPOぱれっと、③NPO法人フェルマータ**の３団体で、それぞれの現場を見せていただき、生の声をお聞きしました。

和やかムードの車中

カフェパレットでのランチタイム

NPO法人寝屋川あいの会 （説明：三和清明さん）

退職後、何か役に立つことをしたいと思い、市民行革委員に応募。地域でできることはたくさんある！と仲間 14 人で立ち上げました。楽しんでできることをと、女性陣は子育てや高齢者支援、男性陣は商店街のイベントチラシ配りなどを行いました。途中から有償ボランティア活動に切り替えましたが、「お金のやりとりするのん、いやや」という声が上がったので、「ありがとう券」という地域通貨の運用を始め、地元の商店街にも喜ばれています。「出会い・ふれあい・たすけあい」を軸に、指定管理者として市民会館の管理事業も開始し、多様な事業を展開しています。

(有)Office ぱれっと/NPO 法人NPOぱれっと（説明：漆原由香利さん）

公立幼稚園の入園抽選に漏れた子どもたちの居場所として地域の有志が集まり、活動がスタートしました。現在は幼稚園入園前で保育園にも入ることができない子ども達が対象の「プチぱれっと」が主な活動です。週 1 回午前中のクラスから始まり現在はクラス数も活動場所も新しい仲間も増え、高くはないですが給料を払えるようになりました。高齢者、障がい者も含め誰もが集える場所がほしいという思いから「カフェぱれっと」も始めました。将来的には、グループハウスやアートスペースなども入った「ぱれっとはうす」をつくりたいと思っています。

NPO 法人フェルマータ （説明：小林將元さん）

障がい者や何らかの事情で生活のしづらさを抱えた方々への支援を目的に 2001 年にスタートしました。地域の不動産屋さんの協力を得て部屋を借り受け、退院後の精神障がい者の方々の生活をサポートしたり、常設のカフェで就労体験の場を創出したりしています。引きこもっている若者や精神障がい者のサポートには、福祉、医療、教育に加えて経済の要素が必要です。就労の場がないと、生活保護か年金かの二者択一になってしまうからです。ぶつ切りになっている領域を串刺しにして、総括的にサポートしていくのがNPOである我々の役割ではないかと感じています。

（支援事業セクション：飛田敦子）

木口ユニバーサルセンター内で開設予定のスロースタイル・レストラン延期のご報告

前回（2009 年 10 月 25 日発行）の市民フロンティア通巻 57 号で紹介した「スロースタイル・レストラン」は、以下の諸事情により開設を断念し、急遽見送りになったことを報告します。

延期理由は、先ず 2008 年の「リーマンショック」以降、100 年に 1 度の危機と言われる世界同時不況に陥り、財団法人木口ひょうご地域振興財団（木口財団）の資金繰りが極端に悪化してしまったことが大きな原因です。それから、木口財団の基本財産である創設者木口衛氏からの寄附に対し、平成 20 年 4 月 1 日の「租税措置法」の改正により、2010 年 1 月中もしくは 2 月頃までに、7 億円以上の譲渡税の納税義務が決定してしまいました。

これらの資金繰りの悪化により、木口財団の基金を取り崩して対応することになったため、木口ユニバーサルセンター会館運営に当たり相当な資金繰りの見直しが必要で、会館運営が落ち着いてくるまで、レストラン経営は見送らざるを得ないという結論に至りました。

従ってレストランスペースは、当面「多目的ホール」として、障がい者を支援する活動団体に「一時貸し」とし、来館者が飲食物を持ちこみ可能なスペースで、交流会、懇親会、福祉事業所の自主製品の実演販売、障がい者の絵画作品展、コミュニティカフェ等の日替わりで利用できるスペースとしての活用が決定しました。

また、新公益法人制度改革（2008 年 12 月）により、公益財団法人に変更をすることになりますが、その際にも収益事業としてではなく、あくまでも公益的な福祉目的の用途としての利用に限られるということに変わりはなく、この制限枠内での利用として、どのように進めればスロースタイル・レストランの運営が可能なのか少し時間を掛けながら、出来るだけ近い将来に再開できるよう、新しい事業計画の策定に移行していく予定です。

（支援事業セクション：国枝哲男；
（財）木口ひょうご地域振興財団評議員 兼 選考委員）

ブログを開設して情報発信
― マッチングシステムの現状と今後 ―

2005 年度のマッチングマーケット調査からスタートし、2006 年度にはマッチングシステム事業へと発展継続中のこの事業は、企業の持っている資源（人材・物・情報、場所、ノウハウなど）と地域・ＮＰＯなどが持っている資源（ボランティア、情報、人材、ノウハウ、ネットワークなど）をお互いが提供・交換し合って、資源の有効活用を図り、より良い社会づくりに貢献していこうというものです。ボランタリー活動資源マッチングシステム運営委員会は、ひょうごボランタリープラザからの助成を受けて、ＮＰＯ、企業、経営者協会、連合兵庫、行政などが運営委員を構成して行っています。

そして、今年度のマッチングシステムの大きな動きの１つとして、ブログを活用して情報発信していくことになりました。具体的には、「関西ええこと．ｍｏｔ」というサイト内に、マッチングシステム運営委員会のブログを立ち上げて、各地域の取り組みや事例紹介、また、資源のマッチング情報（資源提供・資源の受け取り希望）などを発信しています。

また、最近のマッチング事例としては、姫路南ライオンズクラブチャーターナイト 17 周年記念事業のイベント開催に際し、「パレードで踊ってくれる踊り子を紹介して欲しい。またパレードに一緒に参加してくれるボランティアの方も紹介して欲しい。」「姫路城周辺での募金活動のやり方を教えてほしい。」との依頼があり、ＮＰＯ法人コムサロン２１の人材ネットワークを通じてマッチングが実現しました。資源提供の情報としては、コープこうべ、帝真貿易㈱から什器備品について寄せられています。

詳細については、是非ブログでご確認下さい。http://www.hnpo.comsapo.net/weblog/myblog/609

「こんな取組をしたいのだけど、どういうやり方をしたら良い？」「こんなイベントをしたいけど、どこか良い場所がないかなあ？」「こんな活動をしているけど人手が足りないんだけど…」等とお悩みの方、資源提供されたい方、資源の受け取りを希望されている方はＣＳ神戸（マッチングシステム運営委員会　事務局）までご連絡下さい。お待ちしております。

（まちづくり活動担当：朴　京守）

予告 2/18

CSRの普及・啓発
― マッチングシステムフォーラム開催 ―

企業のＣＳＲ担当者、総務・人事担当者、業界団体の事務局、社協のスタッフ、行政の担当部署、ＮＰＯのリーダー・スタッフの皆様へ向けた、知恵を仕入れて元気になるフォーラムのご案内です。

参加費無料、定員 100 名(先着順)で事前申込みを受け付けています。お問合せ・お申込は事務局の朴(パク) (電話078-841-0310)まで。

日　時：２０１０年2月１８日（木）１３：３０～１６：００
場　所：全労済　兵庫県本部　５Ｆ大ホール
主　催：ボランタリー活動資源マッチングシステム運営委員会

第１部　「協働によるＣＳＲの取り組み」
（企業理念、社会・地域貢献活動、ＮＰＯとの協働の事例などについて発表）
①**「入れ歯の名前入れから始まった社会貢献」**
報告：株式会社神戸介護ケアウイング　代表取締役 足立勝氏
②**「まちづくりとタクシー」**
報告：近畿タクシー株式会社　代表取締役社長 森崎清登氏
③**「我が社のCSR推進活動」**
報告：日本山村硝子株式会社　ＣＳＲ推進室長 植田政孝氏

第２部　「ボランタリー活動資源マッチングの実績」
・「マッチングシステムのブログの仕組みと特徴紹介」
報告：ＮＰＯ法人宝塚ＮＰＯセンター　金森康氏
・「各地域（ＮＰＯ）からブログを使って事例紹介」
報告：各エリアＮＰＯ法人　担当者

第３部　「企業からＮＰＯを見た協働の成果と課題」
～報告者と会場とのディスカッション～
※コーディネート：當間克雄氏
（マッチングシステム運営委員会 運営委員長/
兵庫県立大学経営学部教授）

13年目

これぞマッチングシステムの先駆け！
― ギフト･オン･ハート･カレンダープロジェクト ―

今年度もＣＳ神戸の呼掛けに賛同して下さった３名の個人の方、46 の企業等から何千部とも数え切れない程のカレンダーや手帳をご提供いただき、自治会やまちづくり協議会などの地域団体またＮＰＯ団体等を通じで高齢者や障がい者の方々にお配りさせていただきました。

12 月中旬には既に自治会の会長やお世話役の方お二人から「今年もカレンダーをお願いします！」とお電話をいただき、年に一度のご挨拶になりますが、お顔を拝見できるチャンスでもあるため、12 月 21 日に第一陣となるダンボール箱を満載した車を東灘区内に走らせました。夕方到着した住吉台では雪もちらつき、年の瀬を感じました。

最終日は、1 月 23 日の 1.17 を忘れない“うおざきフェスタ”にご来場の方にプレゼントをして、今年度のカレンダープロジェクトを終了いたしました。ご協力下さった皆さま、どうもありがとうございました。

（理事会事務局：梅木利恵）

40日間のインターン修了報告

―― フィールドワーク実習受入れ事業 ――

2009年8月24日～12月15日の期間内で40日間、ＣＳ神戸の様々なプロジェクトに参加していただくインターンシップとして、神戸学院大学総合リハビリテーション学科より３年次生の男子３名を受入れました。皆さん初々しい姿で、農作業・フォーラムの補助作業、一般事務作業等々の多岐に亘る活動を経験されたご感想を以下にご紹介します。

前列中央左から福西さん、高取さん、高木さん

私はCS神戸でインターンを終えて、一日一日がとても充実した体験を過ごせたと感じています。CS神戸が行っている支援事業を視察し、体験し、利用者の方の声を生で聞く。大学生活では体験出来ない多くの事を知ることが出来ました。

このインターンで一番得たものは、様々な世代の多くの方とのコミュニケーションを交えた事だと感じています。私がこれまでに知らなかった事や、体験した事が無い事を聞く機会を得る事が出来ました。私にとって驚きや発見、疑問を見つける事ができ、自分の持つ考えや視野を広く持てるようになれたと思います。今後社会に出る際また出た後に、このインターンで感じた事、学んだこと活かす事が出来ると感じました。学生のうちに参加出来て良かったと思う事が多くあり、貴重なインターンであったと感じています。（赤木　優）

インターンシップを終えて感じたことは、社会に出て行くためにもコミュニケーションの重要性を認識しました。働いていく中でコミュニケーションは必要不可欠であり、自分自身のコミュニケーション能力を高めないといけないと思いました。そして、色々な方たちと接する機会で少しずつ良くなったと思います。

また、NPO法人が地域密着していることがわかりました。事務所には、毎日多くの利用者の方が訪れてきて、NPO法人が地域住民に必要とされているのが分りました。これからは、もっとNPO法人が新たな産業として発展していくと思いました。（高取順一）

新人スタッフのご紹介

朴　京守（ぱく きょんす）

2009年11月2日より正職員として、総務 および まちづくり活動担当として勤務しています。

前職は機械設計をしていましたが、2008年の秋頃からの景気悪化に伴い、2009年4月末でリストラのため退職しました。その後、就職活動をする中で本当に自分のやりたい事は何だろう？と、ずっと心の中を探求に探求を重ねて考え続けていました。その結果、出て来た答が人様を助ける・サポートする仕事をしたい、というものでした。

自分のやりたい事がはっきりしてからは、具体的な職種としてはイメージが思い付かなかったものの、やりたい事が出来る仕事を探していました。そうこうしている内にＣＳ神戸の求人と出会い、採用下さって本当に感謝しています。

働き始めてから約３か月間の感想は、ＣＳ神戸で働こうと思ったら、本当に多岐に渡る能力を求められており、勉強と成長の毎日です。自己研鑽に励んで、早く一人前のスタッフとなって、皆さんのお役に立つ事が出来れば、嬉しいです。

まだまだ未熟で右も左も分りませんが、今後とも、皆さんのご指導・ご鞭撻の程、どうぞ、よろしくお願い申し上げます。

緊急雇用スタッフのご紹介

（生きがいしごとサポートセンター神戸東　求人開拓　担当）

仙野　牧夫（せんの　まきお）

昨年12月からお世話になっています。

１年前の３月末で41年間の勤めを終えましたが、還暦も中秋の名月を愛でながら迎えることができましたので、そろそろ何か社会復帰でもと考えていましたところ、知人にＣＳ神戸を紹介してもらうことになりました。

（起業団体追跡事業　担当　9名）

後列左から大西さん、福永さん、宮下さん、高田さん、西村さん、井上さん　　前列左から毛利さん、岡さん、齊藤さん

井上　　怜（いのうえ　れい）
かねてよりNPOの仕事に興味があり、３月末までの期間で求人を探したところ、ご縁をいただきました。「コミュニティ・ビジネス」というものに触れ学ばせていただく機会とし、将来に繋げたいと思っています。

大西　洋助（おおにし　ようすけ）
皆さん、こんにちは。この度縁あって起業団体調査事業の調査員として、ご一緒させていただくことになりました。ＮＰＯの今日の活動をしっかり調査して報告をまとめたいと思います。

岡　　郷子（おか　さとこ）
１年前まで金融機関に勤めておりましたので、不安な面もありますが、新鮮な気持ちで活動しています。この出会いに感謝し、いろんな方々との交流を楽しみにしています。

齊藤　須摩子（さいとう　すまこ）
三田からＪＲに揺られ生まれ故郷の神戸に毎週通える喜びと、ＣＳ神戸の一員として、仕事をしながらスキルと経験値を上げられるこの機会にわくわくしています！

高田　清志（たかた　きよし）
神戸の職業安定所の紹介により、CS神戸の存在を知りました。前職は牛丼屋の店長、OA機器の法人営業、食肉メーカーのコンピュータ室の管理職を経て調査の活動に参加させていただいております。

福永　敦雄（ふくなが　あつお）
コミュニティ・ビジネス調査の仕事をさせていただくことになりました福永敦雄です。今までに経験したことのない仕事にワクワクしています。

宮下　隆二（みやした　りゅうじ）
元行政書士・学習塾講師です。NPOの活動には、以前から興味を持ってきました。今回、期間は短いですが、これまでの経験を生かして、皆様のお役に立てればと思っております。

毛利　真弓（もうり　まゆみ）
ソーシャルアクション講座で勉強していましたご縁で、調査事業をしてみませんかと、お声をかけて下さりました。パソコン熟練者、ボランティアの大先輩達と一緒にお仕事ができるのが楽しみです。

西村　尚士（にしむら　ひさし）
住吉在住の69.9歳の青年です。三宮のハローワークで「ワラビー」を見て、その帰りにさっそくお邪魔し、若い女性２人に面談していただき採用が決まりました。皆さん親切な方ばかりで大変うれしく思っています。

（ふるさとCBインターン事業　担当　4名）

左から柏木さん、藤原さん、岸さん、木幡さん

柏木　雅彦（かしわぎ　まさひこ）
現在、丹波市で木工を細々とやっていますが、コミュニティ・ビジネスとは無縁の状態です。３ヶ月という短い期間ですが、少しでも勉強できればと思っています。

岸　　千尋（きし　ちひろ）
丹波は空気がきれい。黒豆やお米が美味しいといったイメージしかなかったのですが、この機会に丹波のことを積極的に学ばせていただきたいと思います。

木幡　幸雄（きはた　ゆきお）
「木」をテーマに、森の再生に繋がる間伐材の利用化を検討します。慣れない分野ですが、諸先輩方からご指導いただき、少しでも「ふるさと」のＣＢに貢献できるよう頑張ります。

藤原　和男（ふじわら　かずお）
色々と学びながら、いい“くらし”のサポートをめざすNPO法人の立ち上のお手伝いをさせていただきたいと思います。キーワードは「好きなこと」、「得意なこと」、「喜ばれること」、「地域に密着していること」です。

【無料フォーラム】

“学んで、歩いて調べたわが街の介護施設”

団塊の世代が地域の介護施設を訪問した体験から、
①ボランティアとして何を支援できるか？
②将来、どんな介護サービスを利用できるか？
等を話合います。総合コーディネーターには、大和三重先生（関西学院大学人間福祉学部教授）をお迎えします。

地域包括支援センターへのアンケート調査結果もご報告いたしますので、どうぞご期待下さい。

日　程 ： 2010年2月20日（土）13:30～16:00
会　場 ： 御影クラッセ4階会議室（ユースプラザ KOBE･EAST 内）
（阪神御影駅前すぐ）

※お問合せ・お申込みは、トータルケアシステム推進協議会事務局（電話078－841－0323）まで。申込み締切は2月10日(水)。

【有料交流サロン】

自立支援法はどうなるの？

～ “障がい者福祉制度の流れについて” ～

揺れる自立支援法、具体策は未確定ですが、障がい者福祉の流れについて、神戸市役所の飯島さん(自立支援課長)のお話を聞き、障がい者福祉のあり方や、市民による障がい者支援について、皆で一緒に考えませんか？　いろいろな立場・視点の方が集い、意見を交え合う交流の場です。皆さんのご参加をお待ちしています。

日　程 ： 2010年2月27日（土）14:00～16:00
会　場 ： 生きがいしごとサポートセンター神戸東(ワラビー)
ｹﾞｽﾄｽﾋﾟｰｶｰ ： 飯島久道さん
（神戸市保健福祉局障害福祉部自立支援課長）
参加費 ： 500円
対象者 ： 障がい者支援に携っている方、障がい者支援に関心のある方、自立支援法について知りたい方

※お問合せ・お申込みは、生きがいしごとサポートセンター神戸東・ワラビー（電話078－841－0387）まで。

編集後記

今年いただいた年賀状の一つにチャレンジを！と書いていただきました。実は1年前、友人に勧められ(騙され？)買った「クロスカントリースキー（いわゆる歩くスキー）」専用靴を1月２日にようやく履き初めし、クロカン・デビューを果たせました。 R

【有料フォーラム】

ふるさとにチャンスあり！！

～ 社会企業家の果たすべきミッションとは ～

日　程 ： 2010年3月7日（日）13:15～16:00
会　場 ： 神戸市勤労会館2階　多目的ホール
参加費 ： 500円 （定員120名先着）

第1部　ビジネスにおける社会性と事業性」
西村　順二氏　講演
（甲南大学経営学部教授、商学博士）

第2部　事例発表
丹波の森ー間伐材の有効利用事業
（木材コーディネーター　大谷敏行）
流通のコミュニティ・ビジネス事業
（光カーゴサービス　中村雅信）
丹波農産物販売事業
（農産物コーディネーター　臼井隆夫）

※お問合せ・お申込みは、CS神戸（電話078－841－0310）クニエダまで。

訃報

阪神淡路大震災の後、現中村理事長が一早く旧東灘区役所の敷地にテントを張ってボランティア基地を作った時、ふらっと現れた“ひょろっとした”無口な男性。自称中村さんの秘書として、その日うちに荷物が届く近藤便として、はたまたＣＳ神戸のムードメーカーとして沢山の話題を提供しご活躍下さったＣＳ神戸最古参の近藤敏也さんでしたが、７年前に亡くなられた自慢のご尊父様や １ 年前に行方不明になった愛犬アンリのもとへと旅立たれました。哀惜に堪えませんが、心よりご冥福をお祈りいたします。合掌

会費・寄付をいただき、誠にありがとうございました

（期間 09 年 10/26～10 年 1/24、いずれも順不同・敬称略）
※トータルケアシステム、カレンダープロジェクトは別枠で取扱っています。

【会費】
川上範男、岸　千尋、木幡幸雄、仙野牧夫、西村尚士、朴　京守、橋口文博、福永敦雄、藤原和男、古川健二、本多元彦、水船春美、光岡丈一、宮下隆二、安元邦夫、矢根寛子、山本景造

【寄付・寄贈】
家城裕之、中村順子、村上義弘、西村尚士、陸都史子、コープこうべ、NPO法人 誕生日ありがとう運動、帝真貿易㈱
西日本電信電話㈱